

年間第8主日

高円寺教会 2011.2.27

マタイ6:25～34

来週まで引き続き山上の説教が朗読されますが、今読まれた福音には、さまざまな「思い悩み」が説明されています。「思い悩む」という言葉が4回使われていますが、それだけ弟子たちが思い悩んでいた証拠でしょう。だからイエスも4回繰り返して「思い悩むな」と諭しています。では、私たちの「思い悩み」は何でしょうか？ 今日、10日前までの私の「思い悩み」の話をしたと思います。

「思い悩み」とは試験のことです。私は昨年9月に司祭に叙階されてはいましたが、大学院卒業の最終試験が2月17日にありました。その試験とは、4年間「神学」を勉強してきたことへの総合試験です。科目としては、神論、創造論、キリスト論、恩恵論、三位一体論、マリア論、秘跡論、終末論です。これらの科目の中心的なテーマ、論争の発展について問われます。また、カトリックが教義としている内容は何か？ プロテスタントとの違いは何か？ 現在の神学上の問題点は何か？ そして、私自身の考えや立場について問われます。全部で43の問題は、前もって渡されているのですが、範囲が広い上に筆記試験ではなく口頭試験(面接試験)なので、その場でどのような質問が飛び出すか分からない恐れがあります。信仰の深さというよりも、学問的な知識を問うものなので、もしペトロが受けていたらあまり良い点は取れないかもしれません。大切なのは、理解力、記憶力でしょう。私は、見た目は若いですが、記憶力は10代、20代の頃とは別人のように弱くなっています。20歳そこそこの人と同じ試験を受けるにはハンディがあります。だから、本当なら早くから準備をしておけばよかったのですが、やる気が出なくて先送りしたり、司祭に叙階されてから忙しくなり集中できなったり、体調を崩したり、修士論文のまとめに最後まで追われたり状態で、事前の準備がほとんどできませんでした。本格的に準備し始めたのは1ヶ月前からでした。ここに、その

要点のカードをファイルしたものがありますが、論理的な難しい話や抽象的で雲をつかむような話も多く、このカードを材料にそのままお説教したらみなさんよく眠れるかもしれません。

このカード作りをしている段階で私は、二つの心の状態があることに気付きました。一つは、今日の福音にあるように「思い悩んでいる」状態です。たとえば、イエズス会員は勉強がよくできると言われているから、それに恥じない点を取らなければいけないとメンツを気にしたり、最後惨めな結果で終わりたくないプライドでやっている状態です。結局、何点取れるか不安で仕方なく、不安が焦りとなって表れる状態です。もう一つは、「神様に信頼する」状態です。自分の努力は神様に受け入れられていると、安心しながら勉強する状態です。これまでの準備不足はさておき、今からできることを精一杯すればいい。点数の結果は二の次で、今努力していることが尊いのだと慰めを感じながら準備している状態です。

実際どちらの心の状態が長かったかという、「思い悩んで」いた割合の方が多かったかもしれません。焦りと不安が湧き出る時に「この弱く惨めな私に力を与えて下さい」と願って、やっとこさカードをつくり続けることができました。予定通りに進まなくても、「神様は受け入れて下さる。大丈夫だから。」と自分に言い聞かせて前進しました。どんな結果に終わるとしても、準備してきたことには価値が出てくると信じながら一日一日が過ぎて行きました。そして当日を迎えました。記憶が混乱しているなあと思いながらも、落ち着いて面接の試験を受けることができました。結局、試験で質問された3題は、完全ではありませんでしたが何とか答えることができました。運も味方したのでしょう。最後は、何点取れるかという「思い悩み」から解放されて1時間半の試験を終えることができました。神様と祈りをお願いした人たちに守られて試験が終わりました。

さて、高円寺教会の皆さんの毎日の生活、仕事や家事、勉強はどうでしょうか？ 「思い悩んで」いないでしょうか？ プライドやメンツを保つために努力していることはないでしょうか？ それも悪いことではありませんが、そのレベルにとどまっていると結果

だけを見て一喜一憂しがちです。努力しても後に何も残らず、段々と霊的に渴いていないでしょうか？ また、特に仕事をしている人に多いと思いますが、自分を結果を出すためだけのマシーンのように考えて自分に辛く当たっていないでしょうか？ 神様なしで全部しようとして、疲れ果てていないでしょうか？

イエスは「思い悩むな」「天の父はあなた方に必要なことをご存じである」と言われます。私たちはこの言葉への信仰を時々取り戻す必要があります。私たちは自分では気がつかなくても守られています。養われています。「天の父が私たちの状況に合わせて必要なものを与えて下さる」という安心感があるから、私のように多少不利な状況でも、チャレンジできます。力不足や多少の怠りがあっても、神様が祝福を与えて下さるという信仰があるから乗り越える気力が湧いてきます。記憶力が悪くなったとか、自分を惨めに感じて、投げ出さずに与えられた仕事や家事を続けることができます。

私たちの才能や努力には限界があります。今の状態から、ものすごい努力を加えることはできないでしょう。だとしたら、どのような心の状態で生活するか努力するかにかかっています。「思い悩んで」生活するか？「神様に信頼して」生活するか？

ここに集う私たちの生活が「思い悩み」から解放されて「神様への信頼」に満ちたものとなるよう願いながらこのミサを続けましょう。

イエズス会司祭 柴田 潔